

令和5年度
一般入学試験問題
(特別進学科)

国 語

2月1日(水)

注 意

- 1 監督の先生から、「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 この問題とは別に1枚の解答用紙があります。
- 3 問題用紙と解答用紙両方のきめられた欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆けずり・定規以外のものをおいてはいけません。
下敷きは、監督の先生の許可を受けてから使用しなさい。
- 5 筆記用具などの貸し借りをしてはいけません。
- 6 問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 7 印刷が悪くてわからないときや、筆記用具などを落としたときなどは、だまって手をあげて、監督の先生に知らせなさい。
- 8 監督の先生の「止め」という合図があったら、すぐに止めなさい。

答えの書き方

- 1 問題をよく読んでから答えなさい。答えは、すべて鉛筆またはシャープペンシルで解答用紙に記入しなさい。色鉛筆を使ってはいけません。
- 2 答えは、ていねいに書きなさい。なおすときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 3 メモには、問題用紙の空白を利用しなさい。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、作問の都合上、省略した部分があります。

本文省略

【マット・ジョンソン／プリンス・ギューマン 訳者 花塚 恵『「欲しい」はこうしてつくられる』の文章による】

【注】

- 1 …インターネット上の百科事典のこと。
- 2 …商品やサービスの価格や、販売対象の年代等を設定し、宣伝・広告の方法を考え、売り上げに貢献する人のこと。
- 3 …イギリス人の女性。二度の交通事故により脳にダメージを負い、新しい物事を記憶する能力を失った。

問一 傍線の部分③④のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 本文中の空欄A～Cに当てはまる言葉を次の語群の中からそれぞれ一つ選び答えなさい。なお、AとBの順番は問わない。

【語群】 第三者 ・ 過去 ・ 未来 ・ 自分 ・ 感情 ・ 脳

問三 傍線の部分①とありますが、「脳が」「物理的に変わる」とはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 体験が記憶になるには、毎日の出来事を、睡眠中に脳が痕跡に変えて記憶として定着させること。
- イ 体験が記憶になるには、記憶すべき出来事を、頭の中に符号で表すことで抽象的に保存すること。
- ウ 体験を記憶に残すとは、脳がその体験を海馬で広範囲に管理することで、長期間にわたって残すこと。
- エ 体験を記憶に残すとは、脳がその体験を符号化し、脳の中心近くにある海馬に痕跡として残すこと。

問四 傍線の部分②とありますが、それはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問五 次の文章は、傍線の部分③「起爆剤」について話し合ったある学校の授業での会話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

先生……本文に「起爆剤」とあるけれど、ブランドの販売促進に限らず、私達の脳に強い痕跡を残すための要素としてどんなものが「起爆剤」として考えられるかな？自分の経験をもとに、それぞれ発表してみよう。

生徒A……僕は、弟の部活の大会をビデオカメラで録画したとき、試合を見ていたはずなのに全く試合の内容が頭に残っていないかったという経験があります。このことから、脳に痕跡を残す「起爆剤」には出来事に対する集中力みたいなものが関わっている気がします。

生徒B……今、意識して自分の過去を振り返ってみると、私は楽しかったことや悔しかったことを思い出します。ということは、強い感情との組み合わせによっては「起爆剤」になると思います。

生徒C……子どもの頃によく聞いていた音楽を、何年も聞いていなくてもイントロを聞いただけで思い出せたことがあります。その経験から、メロディが「起爆剤」になることがあると思います。

生徒D……修学旅行に行ったとき、ガイドさんの説明よりも、映像やイラストなど目で見たものの方が理解が深まり印象に残りました。だから、「起爆剤」には視覚が関係していると思います。

先生……みんなの経験は、どれも「起爆剤」になりそうだね。今回の文章はメーカーという例が書かれていたけれど、「記憶の定着」という意味では学習に置き換えても通用しそうだね。

問Ⅰ 生徒たちの会話から、学習に置き換えた際の記憶の「起爆剤」の使用例として、**適当でないもの**を次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア イヤホンで大好きな音楽を聴きながら、英単語帳をずっと眺めていた。

イ 解説動画を見るときは動画に没頭し、メモを取る時は動画を止めた。

ウ 百人一首を覚える際、五七五七七のリズムに乗って、繰り返し声に出して覚えた。

エ 満点を取ったことや、授業での発言で褒められたことを思い出しながら勉強した。

オ 友人と雑談しながら年表を暗記した。

問Ⅱ 生徒たちの会話を踏まえ、あなたが今後の学習への取り組みに活かせると思うことを四十字程度で書きなさい。ただし、問Ⅰの内容と重ならないこと。

二、次の文章は、重松清の小説『南小、フォーエバー』の一節である。小学五年生の「少年（トシユキ）」は南小学校から三月に転校した親友の「三上くん」に会いに行った。これを読んで、あとの問いに答えよ。

本文省略

【注】

- 1 …仲間外れにあうこと。
- 2 …その場の事情や状況が分からず、納得できずに聞いている。

問一 傍線の部分㉑㉒の漢字は読みをひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 傍線の部分①とありますが、なぜトシユキは泣きたくなったのですか。その理由を八十字以内で説明しなさい。

問三 傍線の部分②とありますが、このときのトシユキの気持ちとして**適当なもの**を、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 期待していた結果とは違う状況に悲しんでいる気持ちを三上くんには知られたくない気持ち。
- イ 想像していた結果とは違う現状を打開するために、笑うことでこちらに注目させたい気持ち。
- ウ 新しい学校の仲間と野球を楽しもうとしている三上くんには気を遣わせたくないという気持ち。
- エ 野球を楽しむにしていた自分に出番がないことを三上くんには理解してほしいと思う気持ち。
- オ 久しぶりに会えた三上くと遊べずに悲しむ一方で、少しでも話せたことが嬉しいという気持ち。

問四 傍線の部分③とありますが、このときの三上くんの心情を次の二つの指示に従って説明しなさい。

- 1 「こっち」という言葉が何を指したものを明らかにしなさい。
- 2 五十字以内で説明しなさい。

問五 傍線の部分④では、文字は薄れかかっていたのに、傍線の部分⑤では、文字が鮮やかあざになっている。このように表現されている理由として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ④では三上くんととの友情に自信を失いかけていたため、文字が薄く見えていたが、⑤ではトシユキが自分との友情の証を大切にしていたことを知り、友情に自信を取り戻したことで、文字が鮮明に見えていることを表現するため。

イ ④では三上くんと一緒に遊んでいた日々を思い出せずにいたために文字が薄く見えていたが、⑤ではキャッチボールを通してはつきりと記憶を思い出すことができて文字が鮮明に見えているということを表現するため。

ウ ④ではグローブに付いていた汚れのせいで文字が見えづらく薄く見えていたが、⑤では汚れが落ちたことで文字を鮮明に認識することができるようになったことを表現するため。

エ ④では再開した三上くんととの会話に緊張し余裕がないために文字が薄く見えていたが、⑤では三上くんとキャッチボールができたことで次第に緊張がとけて文字が鮮明に見えるようになったことを表現するため。

ア ④では三上くんととの友情に自信を失いかけていたため、文字が薄く見えていたが、⑤ではトシユキが自分との友情の証を大切にしていたことを知り、友情に自信を取り戻したことで、文字が鮮明に見えていることを表現するため。

イ ④では三上くんと一緒に遊んでいた日々を思い出せずにいたために文字が薄く見えていたが、⑤ではキャッチボールを通してはつきりと記憶を思い出すことができて文字が鮮明に見えているということを表現するため。

ウ ④ではグローブに付いていた汚れのせいで文字が見えづらく薄く見えていたが、⑤では汚れが落ちたことで文字を鮮明に認識することができるようになったことを表現するため。

エ ④では再開した三上くんととの会話に緊張し余裕がないために文字が薄く見えていたが、⑤では三上くんとキャッチボールができたことで次第に緊張がとけて文字が鮮明に見えるようになったことを表現するため。

三、次の古文Ⅰと漢文Ⅱを読んで、あとの問いに答えなさい。

古文Ⅰ

壁に耳ありと言ふ事をわすれそんでうそれは、なかなか人ではないと言ひだしけるが、うしろをみれば、その人アあたり。①肝をけし
て、ただいきぼとけじやと言ふ。②そしらるる人、ほむるを聞きてよろこび、そのまま、③あみだの印をむすびたることよ。

【安楽庵策伝『醒睡笑』の文章による】

【注】そんでうそれは…どこそこの誰それは。

なかなか…とても。

肝を消して…肝を冷やして。

あみだの印をむすびける…仏様に手を合わせた。

いきぼとけ…仏のような心を持つ人のこと。

そしらるる…悪口を言われる。

漢文Ⅱ

古有^{いにしへに}二言。牆有^{かき}耳。伏寇^{かひ}在^り側^{かたはらに}。

牆有^り耳者、微謀^{ぼぼう}外^に泄^{もれ}之^を謂^ひ也。

書き下し文

古に二言有り。牆に耳あり。伏寇側に在り。

牆に耳有りとは、微謀の外に泄るるの謂なり。

【管仲『管子』の文章による】

【注】 牆：垣根、土塀。

伏寇：隠れて潜んでいる敵。

問一 傍線の部分ア「ゐたり」を現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

問二 傍線の部分③に、書き下し文を参考にして、返り点と送り仮名を付けなさい。

問三 傍線の部分①の意味として、最も適当なものを次の選択肢ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大変面白くて

イ とても驚いて

ウ うまく隠して

エ 我を忘れて

問四 傍線の部分②とありますが、どのような悪口を言われたのですか。その部分を本文中より二十字以内で抜き出しなさい。

問五 傍線の部分③のような行動をとったのはなぜですか。その理由を説明しなさい。

問六 古文Ⅰは、悪口を言った人のどのような点が面白いのですか。五十字以内で説明しなさい。

問七 壁に耳ありと牆に耳有りは同じ意味である。その意味を説明しなさい。